

がくしゅうかだい（1ねんせい）

【こくご】おうちのひととけいかくをたててがくしゅうをしていきましょう。

<べんきょうすること>

◆「なんて いおうかな(きょうかしよ 18～19ページ)」をがくしゅうします。

(1) えをみて、こどもをひとりえらびます。そのこが、どんなことをいつているか、かんがえてみましょう。

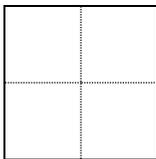
※がっこうのせんせいやおともだちになんていうかをかんがえてみましょう。

(2) がっこうで、おともだちとやってみるまえに、おうちでれんしゅうしましょう。

◆129～130 ページにのっている ひらがなのひょうをみて、じぶんのなまえをれんしゅうしてみましょう。

※かきじゅんどおりに、かいてみましょう。

※とりくみシートや、ノートのます（しかく）から、はみださないようにかいてみましょう。



ます（おおきいしかく）のなかは、4つのちいさなしかくにわかれています。4つのちいさなしかくのどこにもじのせんがはいるのか、よくみてれんしゅうしてみましょう。

<保護者による関わり方のポイント> ※可能な範囲でお願いします。

◆「なんて いおうかな」では、学校の中の様々な場面でのやり取りの仕方を考えます。

・挿絵の中の子どもを一人決めて、話すことを考えさせてあげてください。「この人は、何と言っているでしょう？」と尋ねてあげる方法もあります。お子さんがどんなことを話すとよいのか困っている時は、お家の方が考えた言葉を真似して話すことでもよいことを伝えてあげてください。

・「職員室」「保健室」など、大人とやりとりをしている挿絵がいくつかあります。「～です。」や「～ます。」を使った言葉のやり取りができた場合には、大いにほめてあげてください。ていねいな言葉で話すことの楽しさを感じることができます。

《やり取りの例》

P19 上段のイラスト

- ・しつれいします。
- ・〇〇先生は、いらっしゃいますか？

P19 中段左のイラスト

- ・〇〇さんが、グラウンドで転んでしまったので、見てください。
- ・ひざが、ひりひりしてたいです。
- ・見てくれてありがとうございました。

【さんすう】

いっしゅうかんのあいだ、すこしずつやってみよう。

「※」はべんきょうするときのせんせいからのアドバイスだよ。

<べんきょうすること>

◆「いくつかな」（きょうかしよ 14～16 ページ）

- (1) 6（ろく）、7（しち）、8（はち）、9（く）、10（じゅう）のかずをこえをだしてよんでみよう。
- (2) すうじとおなじかずだけ、14 ページと 15 ページの ○のなかにいろをぬろう。
- (3) えのなかに 8 このものはあるかな。まるでかこんでみよう。
※えのなかに 8 こあるものは、1 しゆるいだけじゃないよ。
- (4) えのなかで 10 こあるものを、まるでかこんでみよう。
※むすんでいるものとつかっているものがあるよ。
- (5) 16 ページにある 6、7、8、9、10 のすうじをかくれんしゅうをしよう。
※すうじは、ていねいになぞって、れんしゅうしてから、かこう。
- (6) 6、7、8、9、10 のすうじとおなじかずのブロックをつくえのうえにならべてみよう。
※かぞえるときは、こえにだしてみるといいよ。

<保護者による関わり方のポイント>※可能な範囲でお願いします。

◆「いくつかな」（教科書 P14～16）

- ・数字の練習を行うとき、「8」や「9」はうまく書けないことがあります。そのようなときは、丁寧になぞっているときをほめ、矢印の向きに書き進むことを伝えてあげることが大切です。
- ・時間に余裕がある場合は、家族の方が数字を見せ、その数をブロックで表すなど、一緒に遊ぶことを通して数の感覚を磨くことができます。

例（家族）…「7」を見せる。→（子ども）ブロックを並べる「できたよ！」

（家族）→「本当に合っているかな？一緒に数えてみよう」



参考

※各教科書会社HPには、臨時休業中の学習に役立つ内容が掲載されており、札幌市公式HP「臨時休業中の学習課題」内の「[役立つリンク集](#)」で紹介しています。各教科の学習を進める際に、お役立てください。